



展覧会名	イエッペ・ハイン 360°		
会 期	2011年4月29日(金・祝) → 8月31日(水)		
	開場時間 / 10時~18時(金・土曜日は20時まで) チケットの販売は開場30分前まで		
	休 場 日 / 毎週月曜日(ただし、5月2日、7月18日、8月15日は開場)、7月19日(火)		
会 場	金沢21世紀美術館 展示室1-6、14、廊下	出品点数	10点
	料 金		
◎ 一般1,000円(800円) / 大学生800円(600円) / 小中高生400円(300円) / 65歳以上の方800円			
※()内は団体料金(20名以上)及び前売りチケット料金			
※同展チケットにて「コレクション展」も観覧可(7月18日まで)			
◎ 「Inner Voices -内なる声」展との共通観覧券			
一般1,700円(1,400円) / 大学生1,400円(1,100円) / 小中高生700円(600円) / 65歳以上の方1,400円			
前売りチケット: チケットびあ tel.0570-02-9999 (Pコード[展覧会チケット] 764-563、[共通鑑賞券] 764-562) ローソンチケット tel.0570-000-777 (Lコード[展覧会チケット] 53424、[共通鑑賞券] 53437)			
販売期間: 3月29日より8月31日まで ※共通観覧券は6月30日より8月31日まで			
主 催	金沢21世紀美術館 [公益財団法人金沢芸術創造財団]		
後 援	デンマーク王国大使館、北國新聞社	助 成	The Danish Arts Council
お問い合わせ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800		

本資料に関する
お問い合わせ

金沢21世紀美術館 展覧会担当/鷺田、米田 広報担当/落合・黒田・沢井
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2806
http://www.kanazawa21.jp E-mail: press@kanazawa21.jp



展覧会について

デンマークの若手作家イエッペ・ハインの美術館における日本で初めての個展。7つの展示室と廊下を舞台に、観客との関係を生み出すユーモアあふれるインスタレーション作品など10点を展示します。タイトルの「360°」には、全方位に開かれた金沢21世紀美術館の建物にちなみ、見る人との関わりを大切にしたいという思いと、鏡や光を使った回転する作品などによって、空間がぐらつくような体験を引き起こしたいという思いが込められています。新たな空間体験を可能にする、体験型の展覧会です。

展覧会の特徴

○ デンマークの若手作家、日本の美術館で初の個展

イエッペ・ハインは1974年生まれの若手のデンマーク人作家。今回の展覧会は、彼の日本の美術館では初めての個展です。

○ 体験型作品がたくさん 幅広い年齢層が楽しめる展覧会

光、鏡などを使った多くの体験型作品。気づかないうちに壁の位置が変化している作品、見えない迷路を赤外線で感知して巡る作品といった具合に、この展覧会では観客との関わりを生み出す体験型の大掛かりな作品が多く出品されます。年齢を問わず楽しめる展覧会です。子供のためのワークショップコーナーなども予定しています。

○ 目が回る、不思議な空間体験…知覚を刺激する展覧会

イエッペ・ハインの作品の多くは、知覚の体験に関わる作品です。例えば今回の展覧会では鏡が回転する作品など人の感覚や知覚に働きかける大型の作品が多く出品されます。《回転する迷宮》は、中に入ると周りの環境がぐらつくような新たな空間体験を引き起こします。また、カメラを360°回転させて撮影した、金沢21世紀美術館での新作写真作品《360° ギャラリー》も展示。様々な方法で、体験する人の知覚をゆさぶります。

○ SANAA設計の建物の楽しさを引き出す

展覧会名の「360°」に示されているように、妹島和世+西沢立衛/SANAAによる金沢21世紀美術館の建物の楽しさを十分に使った展覧会です。例えば、丸い展示室にはその形を活かした鏡の回転する作品を展示し、これまでにない新たな空間体験を引き起こします。こうした作品を通じ、観客は金沢21世紀美術館の建築の魅力に新たに気付かされるでしょう。

作家プロフィール

イエッペ・ハイン Jeppe Hein



Photo by Anne Mie Dreves

1974年、コペンハーゲン（デンマーク）生まれ。コペンハーゲン王立芸術アカデミー卒業。ベルリンを拠点に制作。

ロンドンのヘイワードギャラリー、パリのポンピドゥー・センターなど多くの美術館で個展を行うほか、リバプール・ビエンナーレなど国際展にも参加。2009年、デンマークのオーフスのARoS美術館で大規模な個展を開催。また、ケルンのバンクハウス・オープンハイムなど各地に、噴水や変型ベンチ、鏡などを使った常設のパブリックアートも制作している。観客の動きに反応するなど、観客同士の間にコミュニケーションを生み出す、ユーモラスで茶目っ気のある作品を制作している。日本では、これまでに、森美術館、広島市現代美術館、SCAI The Bathhouseなどで作品を発表。

関連企画

キュレーターによるギャラリートัวร์

【日時】 2011年4月30日（土） 14:00～15:30

【集合場所】 金沢21世紀美術館 レクチャーホール

【料金】 無料（ただし、当日の本展観覧券が必要）

※イエッペ・ハインによるアーティスト・トークは震災の影響により中止となりました。

出品作品について

広報用に1番から4番までの作品画像の提供が可能です。

<使用条件> ご希望の方は下記をお読みの上、広報室までお問い合わせください。

※広報用画像の掲載にはいずれも下記クレジットの明記が必要です。各画像のキャプションとともに必ずご表示ください。

Courtesy: Johann König, Berlin, 303 Gallery, New York and SCAI The Bathhouse, Tokyo

※トリミングはご遠慮ください。キャプション等の文字が画像にかぶらないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で広報室までご連絡ください。

※掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

展示室 1

《回転するピラミッドII》

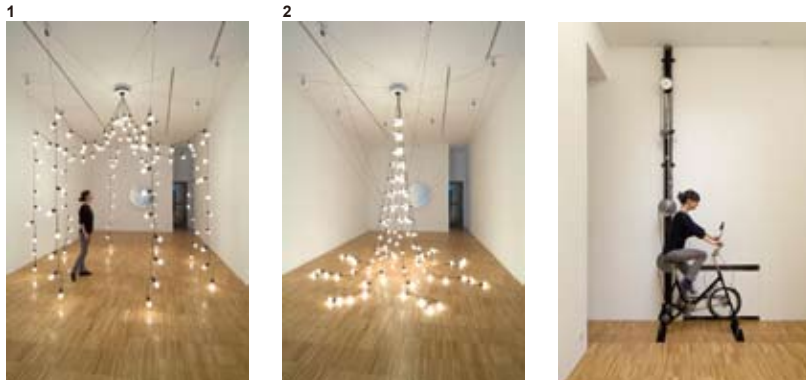


《回転するピラミッドII》2007

壁に取り付けられた全面鏡の四角錐がゆっくりと回転します。それにつれて、展示室の周囲の壁に反射した光が変化します。鏡には、天井、床、壁の断片が万華鏡のように写ります。シンプルな仕掛けで、空間の新たな体験を可能にします。

展示室 2

《光のパビリオン》

《光のパビリオン》
2009
Photo: Jan Mot

コードで繋がった電球がいくつも天井からぶら下がる作品。電球のコードは、ゆっくりと上下し、その中に入ることもできます。展示室内にあるエクササイズバイクを訪れた人が漕ぐことで電球が動きます。

展示室 3

《見えない動く壁》

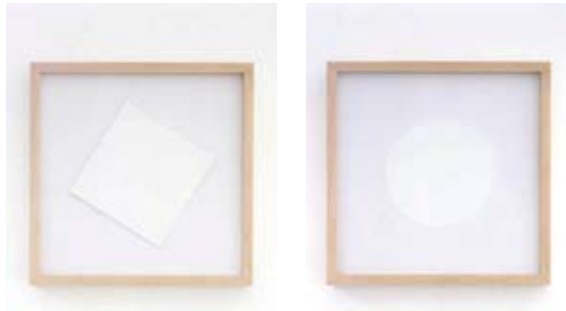


《見えない動く壁》2001 Photo: Enrique Tourin

ほとんど気づかないほどのゆっくりとした速さで、大きな自立壁が展示室の壁の間を左右に動き、裏側への通り道を遮ります。一度通った通路を戻ろうとすると、さっき通ったはずの通路が無くなっており、壁の位置が変わったことに気づきます。訪れる人がどのように空間を把握しているかを考えさせる作品です。

展示室 3

《回転する正方形II》



《回転する正方形II》2011

壁に掛けられた額の中で白紙の紙が高速度で回転しています。最初は紙が円形に見えますが、よく見ると正方形であることがわかります。

展示室 4

《見えない迷宮》

《見えない迷宮》2005
Photo: Anders Sune Berg

赤外線信号を使った仮想の壁によって、展示室全体に迷路が作られている作品です。訪れる人は、赤外線受信機を身につけ、その振動で壁の存在を感知しながら、迷路状の見えない壁に沿って奥に進んでゆきます。天井に取り付けられた赤外線発信器は、曜日ごとに切り替えられ、日々異なる迷路の形となります。体験者は、目でみた迷路の情報と、見えない導線を、頭の中でつなぎ合わせながら進みます。体験者の頭の中に存在する建築あるいは彫刻であるといえます。

展示室 5

《変化するネオン彫刻》



ネオン管でできた1.5メートルのルービックキューブ状の立方体が点滅する作品です。光り方は2秒ごとに変化し、ピラミッド型や階段型など、様々な異なる形状を生み出します。センサーにより、観客が近づくと、光は変化をやめて静止します。

《変化するネオン彫刻》2006
Photo: Anders Sune Berg

※広報用画像の掲載にはいずれも下記クレジットの明記が必要です。各画像のキャプションとともに必ずご表示ください。

Courtesy: Johann König, Berlin, 303 Gallery, New York and SCAI The Bathhouse, Tokyo

展示室 6

《籠と鏡》

鉄の棒でつくられた、軽やかで開放的な巨大な籠の中央に、大きな丸い鏡が吊り下がっている作品。籠の中に入って鏡の周りを歩く事ができます。鏡は気づかないほどの速さでゆっくりと回転し、周囲の環境がぐらつくように感じられます。

展示室 14

《回転する迷宮》



《回転する迷宮》2007 Photo: Tate Photography

鏡張りの薄い柱が二重の円状に並び、外側の円と内側の円がゆっくりと反対方向に回転する作品です。中に入って歩くこともでき、周囲の環境にとけ込み、形が判別できなくなります。周囲の環境と自分自身の経験と知覚を直接的にぐらつかせ、ずらす作品です。

外構

《現れる部屋》

※《現れる部屋》は、震災の影響により現時点では展示できません。
状況により追加展示する予定です。

※広報用画像の掲載にはいずれも下記クレジットの明記が必要です。各画像のキャプションとともに必ずご表示ください。

Courtesy: Johann König, Berlin, 303 Gallery, New York and SCAI The Bathhouse, Tokyo